

Kayama Kogyo Co.,Ltd.

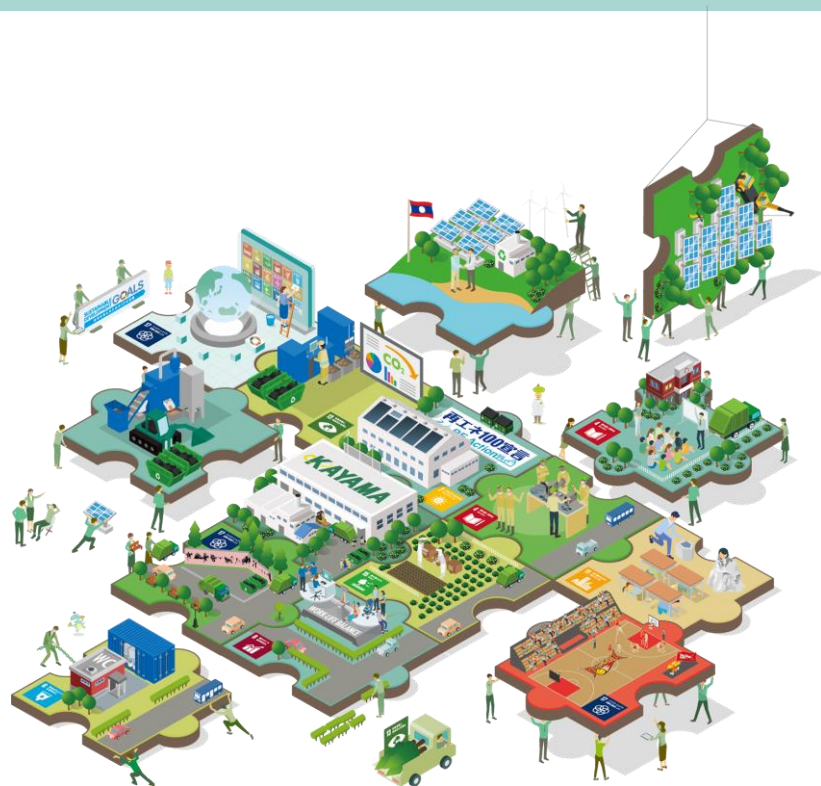


資源循環ビジネスとカーボンニュートラルについて

3月4日 省エネルギー推進シンポジウム2025
～カーボンニュートラルに向けた取組みとは～



本日のプログラム



01 加山興業について

02 KAYAMAサステナビリティ戦略

03 具体的な取り組み事例

04 ありたい姿に向けて強化していること

加山興業について

Kayama Kogyo Co.,Ltd.

会社概要



社 名	加山興業株式会社 [Kayama Kogyo Co.,Ltd.]		
代 表 者	代表取締役 加山順一郎		
所 在 地	名古屋本社 愛知県名古屋市熱田区南一番町15-5 豊川本社 愛知県豊川市南千両2-67 千両リサイクルプラント 愛知県豊川市南千両2-1 市田リサイクルプラント 愛知県豊川市市田町蓮池20-2	大府営業所 愛知県大府市北崎町遠山244 豊橋営業所 愛知県豊橋市富久縞町字中ノ坪7番地2 岐阜営業所 岐阜県岐阜市柳ヶ瀬通7-9 1号室	
事 業 内 容	産業廃棄物収集運搬業 産業廃棄物処分業 特別管理産業廃棄物収集運搬業	特別管理産業廃棄物処分業 一般廃棄物収集運搬業・処分業 自然エネルギー事業	養蜂事業 環境啓発事業 環境機器用品販売事業 SDGs実装支援・普及啓発事業
設 立	1961年(昭和36年)11月1日		
資 本 金	5,000万円		
関 連 会 社	LAO KAYAMA		
所 在 地	Head office: No 10 (Dounnoun)Road ,Dontiew Village Xaythany District, Vientiane Capital Office:Phonekheng village, Xaysettha District, Vientiane Capital		
従 業 員	138人(2023年9月現在)		
売 り 上 げ 高	43.2億円(62期:2022年9月~2023年8月)		



DRIVING AMBITIOUS CORPORATE CLIMATE ACTION

各団体への参加
認証の取得を
積極的
に行っています



KAYAMAサステナビリティ戦略

Kayama Kogyo Co.,Ltd.

KAYAMA's DNA

企業理念

当社は、企業遺伝子(KAYAMA's DNA)に従って次世代のための環境保全を最大の責任と認識し、経済活動のあらゆる面で廃棄物の再資源化ならびに環境にやさしい処理技術の研究開発に努め、地域社会に貢献するとともに、快適な職場環境の形成の為に労働安全衛生に配慮した活動を従業員が協力・協議・参加し、健康と安全の確保に努めます。

また、世界の持続可能な社会・環境の目標であるSDGs(Sustainable Development Goals)に配慮しながら、法規制の遵守を徹底し、自主的・継続的に環境保全に取り組みます。

VALUE 約束する価値・強み

1. 知識と見識
2. ホスピタリティマインド
3. 環境保全
4. R&D(研究開発)

VISION 実現すべき未来

**Our Planet,
Our Home**

緑あふれるクリーンな
日常を世界に。

MISSION 日々果たすべき使命

お客様満足を追求し、
快適な環境を創造し、
未来も満たされるサー
ビスを提供し続ける。

SLOGAN 合言葉・モットー

I'm Here!

いつもそばに



CREDO 大切にすべき精神

わたしたちは「緑あふれるクリーンな日常を世界に」のビジョンの下に志を一つにする仲間です。共に学び、共に成長し、共に楽しみ、共に喜ぶ。企業価値を高め、お客様に社会に家族に誇れる会社となります。ライフラインの一端を担うものとして、存在できていることに感謝し、社会の進歩発展に貢献します。

わたしたちは役職、年齢、性別、国籍、その他個人を構成するものに左右されることなく、等しく、以下のクレドをもって、職務に従事します。

1. 貪欲に知識を求め、学び、見識を深めます。
2. すべてにおいて主体的に行動し、妥協を許さず、責任と喜びをもって従事します。
3. 心のこもったサービス意識を常に保ち、期待を超える行動で応えます。
4. 多様性を受け入れ、互いを尊重し、助け合います。
5. 感謝と尊敬の念を忘れず、すべての人とモノに慈しみをもち、環境へも最大限に配慮します。
6. 自らの成長が社会貢献へつながらと認識し、努力を惜みず、成長し続けます。
7. 未来への希望をもち、変化を恐れず、新しいアイデアの創出に挑戦し続けます。
8. 規律を守り、自らと周囲の安全性を確保します。

KAYAMAサステナビリティ領域における戦略的重要課題



適正処理・資源循環

あらゆる廃棄物の適正処理を継続、
マテリアルリサイクルの事業領域の深化



地球共生

様々な社会課題に柔軟に
応え続けることができる
“I'm Here!” (いつもそばに) の体現



ウェルビーイングの追求

社員がお互い尊重し合い高め合い、
安寧な生活を営むことができる会社の実現



脱炭素

「クリーンな日常を世界に」
社会創造の実現



環境共生

「緑あふれる」＝豊かな資源環境と
生態系が満たされる環境の整備



コンプライアンス遵守と リスクマネジメント

揺るがない企業基盤の構築による
永続的にステークホルダーから
必要とされ続ける会社の実現

カーボンニュートラルに向けた取り組み事例



脱炭素

「クリーンな日常を世界に」
社会創造の実現

FUTURE VISION -将来像-

「クリーンな日常を世界に」
社会創造への貢献

HIGHLIGHTS -63期の主な実績-

- ・ EV車営業車の一部導入
- ・ 再エネ調達の100%の達成と維持

FUTURE PLAN -今後の計画-

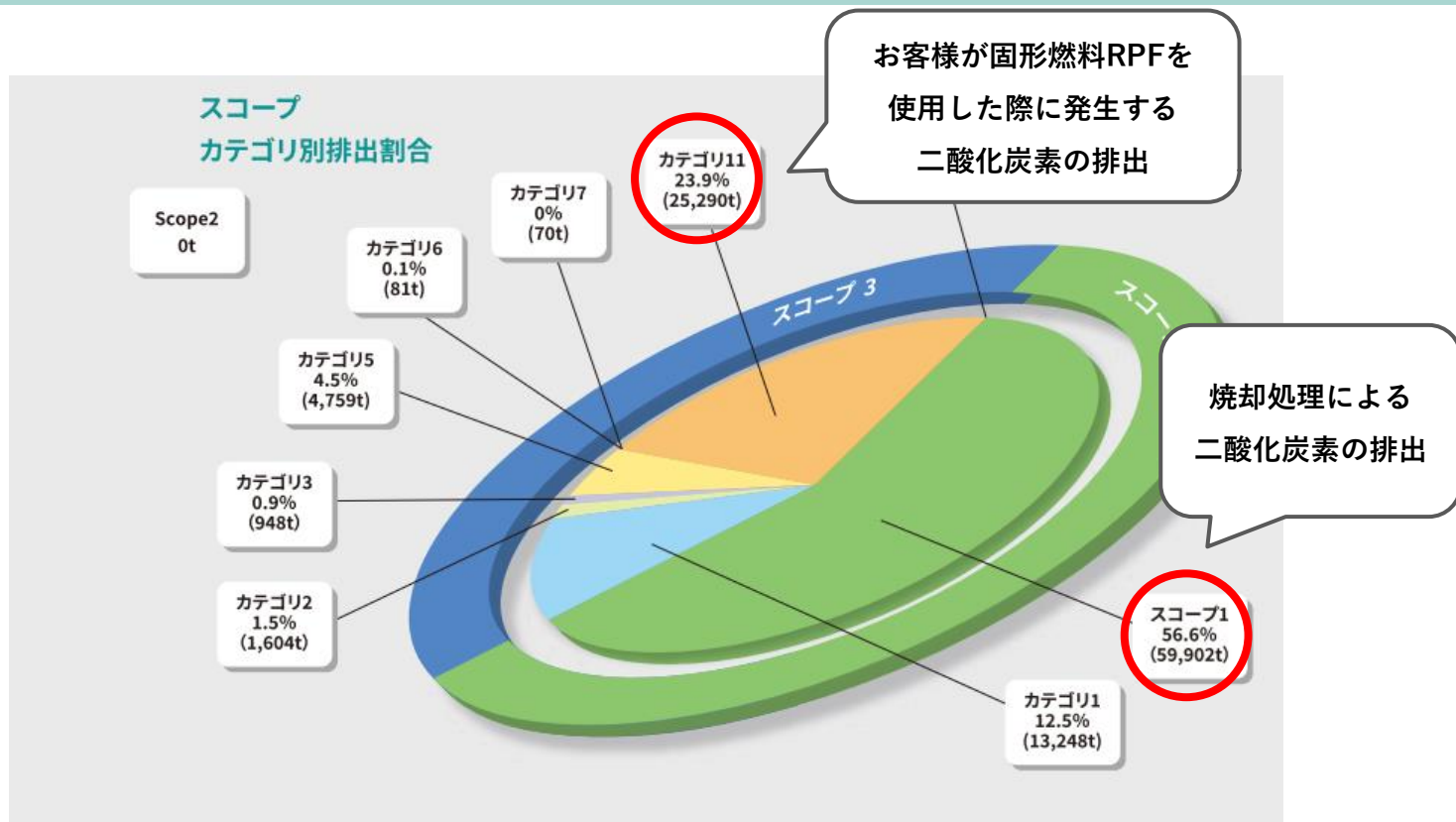
- ・ 大学機関と連携した脱炭素トランジション戦略の策定
- ・ ステークホルダーへ脱炭素対策の働きかけ

具体的なカーボンニュートラルに向けた取り組み



項目	内容
STEP1 現状把握	GHGプロトコルに基づいた排出量の可視化
STEP2 目標設定	再エネ100やSBT認定等
STEP3 削減の取り組み	外部から期待されている水準を参照して目標設定
STEP4 情報開示	サステナビリティ報告書の発行

STEP1 当社の現在のスコープカテゴリ別排出割合



STEP2 外部から期待されている水準を参照して目標を設定

再エネ100宣言
RE Action



RACE TO ZERO



STEP3 地球にやさしい選択（当社の脱炭素対策）



スコープ1

- ▶ 焼却炉のエネルギーの、灯油から都市ガスへの切り替え（約10%のCO2排出量削減効果）
- ▶ 重機における、軽油からGLT燃料への切り替え（約8.5%のCO2排出量削減効果）
- ▶ バッテリー型のフォークリフト・EV自動車の電化推進
- ▶ 焼却炉における熱回収の推進（バイナリー発電の導入）

▼EV自動車の導入



スコープ2

- ▶ 再生可能エネルギー環境価値の利用（CO2排出量0tの達成維持）
- ▶ 調達した電力の再生可能エネルギー率100%を達成
- ▶ 自社社屋での太陽光発電システム導入

▼自社社屋の太陽光発電



スコープ3

- ▶ 取引先・地域・業界団体への取り組み共有、再生可能エネルギー環境価値の提案
- ▶ 社外へ環境教育を推進
- ▶ グリーン購入の推進
- ▶ テレワークの推進によるCO2排出量削減
- ▶ 顧客から預かった廃棄物に対するリサイクル率の促進
- ▶ カーボンニュートラルに資するプロジェクトへの投資

再エネ100宣言
RE Action

STEP4 情報開示



▶サステナビリティ報告書の発刊

- 毎月のエネルギー使用量の把握、整理を実施
- ステークホルダーとの脱炭素のコミュニケーション向上に役立つ

全42ページ



自社の重要課題と各重要課題に対する目標と具体的な取り組みをレポートिंगすることを始める

全86ページ



前期より大幅にアップデート！
GRI対照表を具体的に参照した形で
より詳細な開示を開始

全100ページ



前期のサステナビリティ
レポートから
さらにアップデート！

処理フローごとに二酸化炭素排出量を開示

▶各処理フローにおける1単位あたりの二酸化炭素排出量と削減に成功した量

	処理工程	算定対象範囲	固有値 (t-CO ₂ /1000t)	年間削減量 (t-CO ₂)
千両ブランド	焼却処理 (廃プラスチック類)	①焼却炉稼働電力使用 ②焼却炉稼働都市ガス使用 ③焼却炉稼働軽油使用 ④重機稼働GTL燃料使用 ⑤廃プラスチック焼却処理 CO ₂ ⑥廃プラスチック焼却処理 N ₂ O→CO ₂	①0 +②0.04 +③④1.86 +⑤2,550 +⑥50.66 =2,602.56(t)	1,588(t)
	焼却処理(廃油)	①焼却炉稼働電力使用 ②焼却炉稼働都市ガス使用 ③焼却炉稼働軽油使用 ④重機稼働GTL燃料使用 ⑤廃油焼却処理 CO ₂ ⑥廃油焼却処理 N ₂ O→CO ₂ ⑦廃油焼却処理 CH ₄ →CO ₂	①0 +②0.04 +③④1.86 +⑤2,920 +⑥2.92 +⑦0.014 =2,924.83(t)	
	RPF:固形燃料(押出成形)	▶製造設備稼働電力使用 ▶重機稼働軽油使用 ▶重機稼働GTL燃料使用	9.53(t)	1,951(t)
	選別	▶設備稼働電力使用 ▶重機稼働軽油使用 ▶重機稼働GTL燃料使用	10.12(t)	251(t)

	処理工程	算定対象範囲	固有値 (t-CO ₂ /1000t)	年間削減量 (t-CO ₂)
中田ブランド	破砕	▶設備稼働電力使用 ▶重機稼働軽油使用 ▶重機稼働GTL燃料使用	7.96(t)	47(t)
	銅ナゲット製造	▶設備稼働電力使用 (バッテリー式重機使用・再生電力100%使用のため) ※停電時等のみ軽油重機使用	0(t)	
	ハードディスク物理破壊	▶設備稼働電力使用 (バッテリー式重機使用・再生電力100%使用のため) ※停電時等のみ軽油重機使用	0(t)	
	太陽光パネルの中間処理	▶設備稼働電力使用 (バッテリー式重機使用・再生電力100%使用のため) ※停電時等のみ軽油重機使用	0(t)	
広域	解体	▶重機利用軽油使用 ▶重機利用GTL燃料使用	0.157(t-CO ₂ /件)	0(t)
	収集運搬	▶収集運搬車両運転時の軽油使用	0.829(t-CO ₂)	0(t)

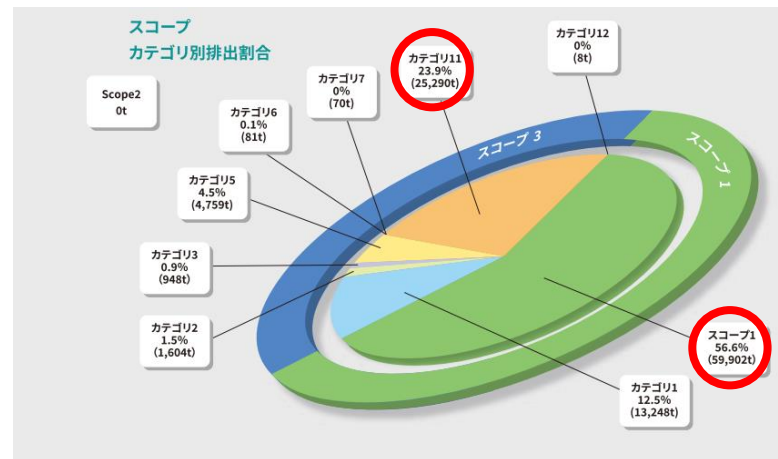
年間削減量については、再生電力調達をしない場合の二酸化炭素排出量(ロケーション基準による全国平均係数にて算出)をベースラインとし、再生電力調達による削減効果を示しています。
収集運搬の単位はt-CO₂/1000kmとしています。

排出量の開示と削減努力により、取引拡大や新規取引の獲得に！

ありたい姿に向けて強化していること

脱炭素対策における目標と足元課題への対応策について

	目標に対する足元課題	今後の対策	今後の目標
スコープ 1	・焼却時の二酸化炭素の回収・リサイクル等先進的な技術 ・より排出係数の低い燃料の導入	・情報収集と積極的な産学官連携への参加 ・新技術を導入するための資金調達	・焼却処理による非エネルギー起源の二酸化炭素排出量削減 ・エネルギー起源の排出量の更なる削減
スコープ 2	・電力価格の不安定化	・自家消費の拡大	・二酸化炭素排出量ゼロの維持 ・再エネ100%の調達を継続
スコープ 3	・カテゴリ11はエンドユーザーが固形燃料を利用した際に発生する二酸化炭素排出量 ・カテゴリ1は廃棄物の収集運搬の協力会社。企業によって取り組み状況に温度差がある	・環境や人権に配慮した投資活動 ・取引先や協力会社へ脱炭素対策の働きかけ	・スコープ3の全体的な削減

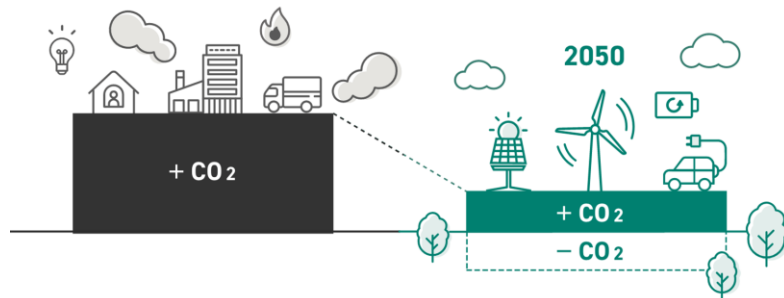


イノベーションに期待しながらも
取り組むことができるところから
取り組んでいく方針

スコープ全体の対策（名古屋大学と連携して脱炭素移行計画を策定中）



▶脱炭素において学術的な側面からの知見を豊富に有する大学機関との連携



顧客から預かった廃棄物の焼却に伴う
二酸化炭素抑制方法（スコープ1）について模索中

固形燃料製造事業に依存しすぎないビジネスモデル
構築に向けて模索中（スコープ3カテゴリー11）

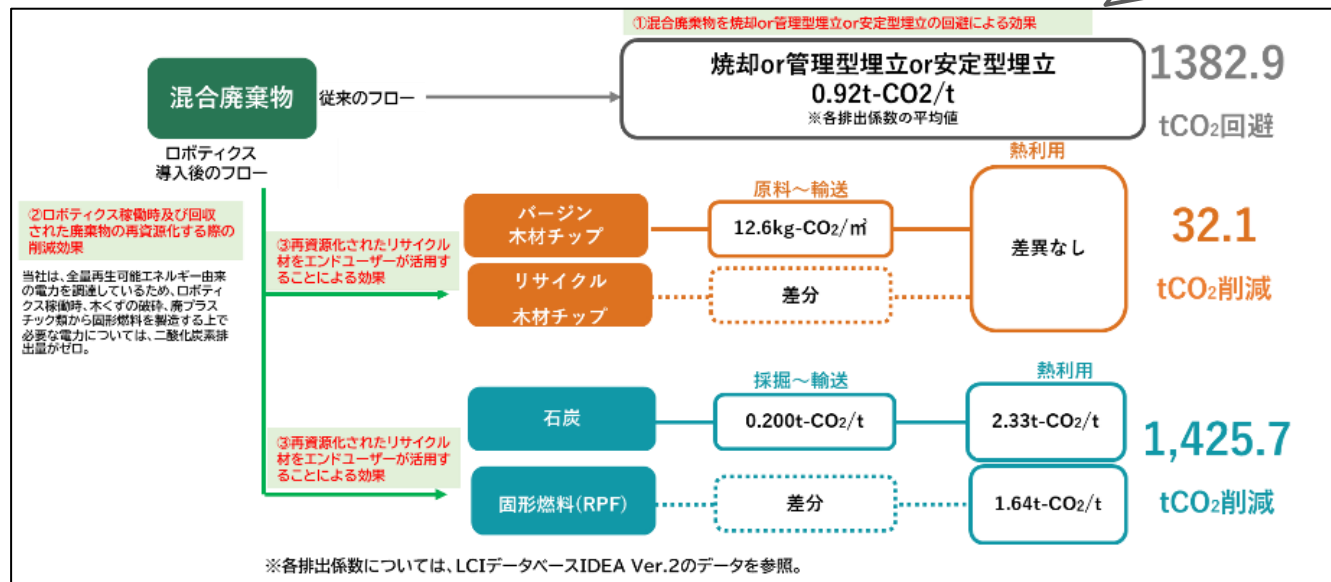


高度なリサイクル技術の導入 (AI画像認識システムを活用したロボティクスの導入)



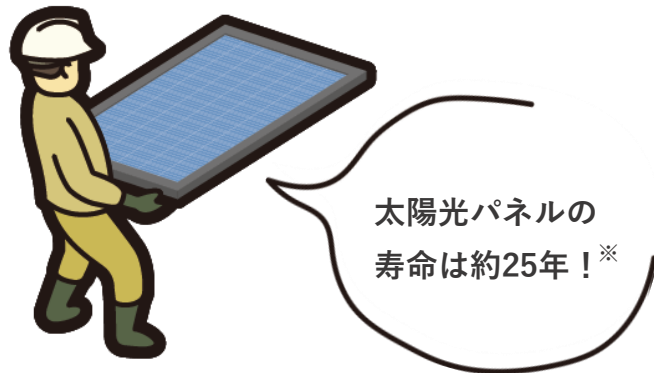
▶焼却を回避して廃棄物をリサイクルルートに回すことで 資源循環と脱炭素と事業の収益性を両立させる

2025年3月に導入予定



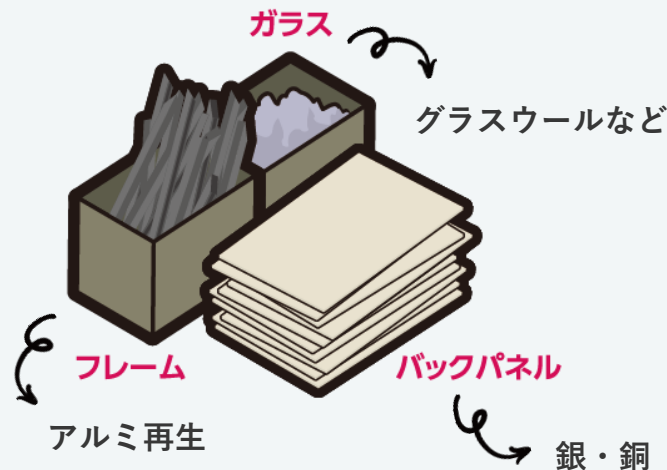
【廃棄に関するさまざまな懸念】

- ・ 不法投棄
- ・ 有害物質の流出
- ・ 最終処分場の逼迫など…



一方で、廃棄量は増加傾向にある

太陽光パネルのリサイクル設備を導入！



※環境省「太陽光発電設備のリサイクル等の推進に向けたガイドライン」, 2018, P11

紙おむつリサイクルプロジェクトの開始

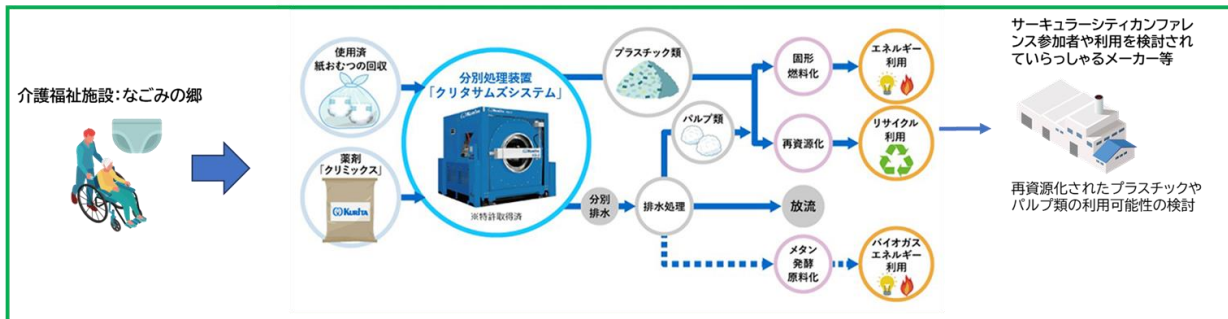


2024年12月18日に
実証実験を実施

【背景】 高齢化により、今後排出量の増加が見込まれている

- ▶ 焼却に伴うエネルギー消費量や、CO2排出量の削減
- ▶ 各資源化素材の再利用による循環型経済社会構築への貢献

実証実験の全体像



プロジェクト推進体制

蒲都市役所

- ☆情報発信
- ☆実証のための使用済紙おむつの提供
- ☆関係機関の調整

株式会社ダイセキ

- ☆事業連携に関する可能性の模索

愛知海運株式会社

- ☆実施場所の提供
- ☆ユーティリティの提供

加山興業株式会社

- ☆使用済紙おむつの処理、実証の実施
- ☆再資源化の利用可能性の模索
- ☆事業化に向けた検討





Kayama Kogyo Co.,Ltd.